

「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の重点事項(案)

資料2

国民的資産である琵琶湖、その一方で、保全再生が困難な状況にある琵琶湖
その琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全再生するために・・・

本資料の内容については、
今後、多様な主体との調整を踏まえ、
素案(資料4)に反映予定

琵琶湖と人との共生

共感

琵琶湖の重要性や保全・再生の必要性について国民の幅広い「共感」を得る

共存

琵琶湖の保全と多様な産業活動等活力ある暮らしとの「共存」を図る

共有

琵琶湖の価値を将来に渡って「共有」する

喫緊の課題への対応

- 水草対策
(刈取り除去、有効利用等)
- 外来水生植物対策
(徹底駆除、連携体制等)
- 水産資源の回復
(種苗放流、漁場の整備保全等)
- 水源林整備保全
(水源涵養機能維持、流木・土砂対策等)
- 鳥獣害対策
(ニホンジカ、カワウ対策等)

新しい芽出し(先駆け)

- 森林・山村の再生、しがの林業成長産業化
- 生態系保全のための新たな水質管理手法(TOC等)の検討
- 体験・体感による琵琶湖とのふれあい推進
(エコツーリズム、びわ湖スポーツ等)
- 環境関連産業の推進
(水環境ビジネス等)
- 「世界農業遺産」認定に向けた取組
(環境に配慮した農業、生きものを育む水田づくり等独自システム)

水草刈取



ビワマス



水源林整備



環境に配慮した農業
(魚道を上げるナマス)



学習船「うみのこ」



ビワイチ



ボランティアによるオオハナミスギンバイ駆除



琵琶湖環境科学研究センター



調査研究

- 国立環境研究所琵琶湖分室(仮称)と琵琶湖環境科学研究センターとの共同研究、連携強化
- 琵琶湖における調査研究成果のデータベース化と知見等の共有・活用

多様な主体による協働

- これまでのNPOや関係団体中心の協働に「企業」「大学」も加わった仕組みの構築
- 下流域住民や学生、団体との協働(清掃活動、琵琶湖水源林の保全整備等)
- ボランティア活動の推進

琵琶湖の発信、環境学習

- ビワイチなどの推進による琵琶湖の魅力発信
- 下流域や首都圏での情報発信
- 体験型の環境学習(例:近隣府県の小学生を学習船「うみのこ」に乗船)
- 琵琶湖博物館